

# すまい再建

Interview 支援 インタビュー

再建した場所 益城町宮園

関係した支援 くまもと型復興住宅

インタビューに応じた人 ふたごいし けいこ  
二子石 慶子さん

2018年5月から8か月間にわたって、町内で住まい再建の支援活動にあたる団体をご紹介してきましたが、今からは、実際にそのような支援活動などを利用して住まいを再建した人たちをご紹介します。



家族みんなでの生活に胸を膨らませる二子石さん

## Interview

### □被災状況は

持ち家が全壊判定でしたけれども、崩れていた訳ではなく傾いていただけでしたので、必要なものが取り出せたのがせめてもの救いでした。

家族は、私たち夫婦と子どもの3人、犬2匹と猫3匹で、被災直後はひろやす荘に避難しましたが、ペットがいるため総合体育館に移動しました。

総合体育館では、「ペット同伴でもどうぞ」と言われて、大変嬉しかったことを今でも覚えています。1か月ほどは犬猫と一緒に寝泊まりしていましたが、ボランティアの方がペット用のプレハブを作ってくれて、運動や散歩をしたり、ペットゲージに入れて面倒を見てくれていたので大変助かりました。

また、避難所の子どもたちもペットと遊んでくれました。現在も、テクノ仮設団地でペットと一緒に暮らしています。

### □住まいの再建は

もともと住んでいた場所に新築します。再建をどうするか、少し考えましたが、土地はあるし、公営住宅も民間賃貸住宅も、結局は家賃が必要だし、何よりもペットがいますので、家を建てようということになりました。

平成29年の7月、子どもの知り合いの方がたま

たま完成見学会を実施していただきましたので、見に行きました。

そこは、くまもと型復興住宅\*の建築士会・くまもと復興の家グループに参加されていて、私たちの意見や要望をよく聞いてくれましたので、その建築会社に決めました。

震災前は2階建て5DKでしたが、新しい家は2階建てで、1階が6畳と3畳の仏間とLDK、2階に2部屋の4LDKにしました。

犬や猫が外に出入りしやすいように、ペット用のシャッターも取り付けられています。地盤調査の結果も問題なく、地震でもブロックが残っていたので、お隣との境界線も問題はありませんでした。

費用は掛かりますが、3分の2は預貯金から捻出し、残りの3分の1をローンで支払う予定です。

### □今後の生活への期待は

またご近所の方と一緒に生活できることが嬉しいです。新しい土地に行って、知らない人ばかりでは心細いですから。

鍵を頂いたら少しずつ荷物を運んで、年末年始に本格的な引越し作業をします。家の解体の時に庭木を全て処分しましたので、低木や花を家の周りに植えていくのが今後の楽しみです。

インタビュー

\*くまもと型復興住宅 住まい再建促進のため、県産材を使用し、良質で地震に強く、比較的安価に建設できるよう考えられた県内工務店等の施工による木造住宅。テクノ仮設団地に3棟のモデル住宅があり、見学や相談に応じています。先月号の本コーナーに関連記事掲載。